

四万十町文化的施設を考える
町民・中高生ワークショップ

実施報告書

第1回「まちあるきワークショップ【座学編】」実施報告

1. 日時

2018年8月5日（日）13:30～16:30

2. 天候

晴れ 最高気温 35℃／最低気温 24℃

3. 場所

オリエンテーション・作業：四万十町役場 本庁東庁舎 1階 多目的ホール

4. 参加人数

合計参加者：35名（検討委員・役場職員を含む）

5. テーマ

文化的施設への夢や希望を共有しよう

6. プログラム実施内容

- 1) 開会の挨拶
- 2) 講演会「四万十町ではじめる『未来の文化的施設』」
- 3) まちあるきワークショップ【座学編】「まちあるきしたい場所を考えよう」

第1部：13:30-14:10 オリエンテーション「まちあるきの説明・テーマ決定」



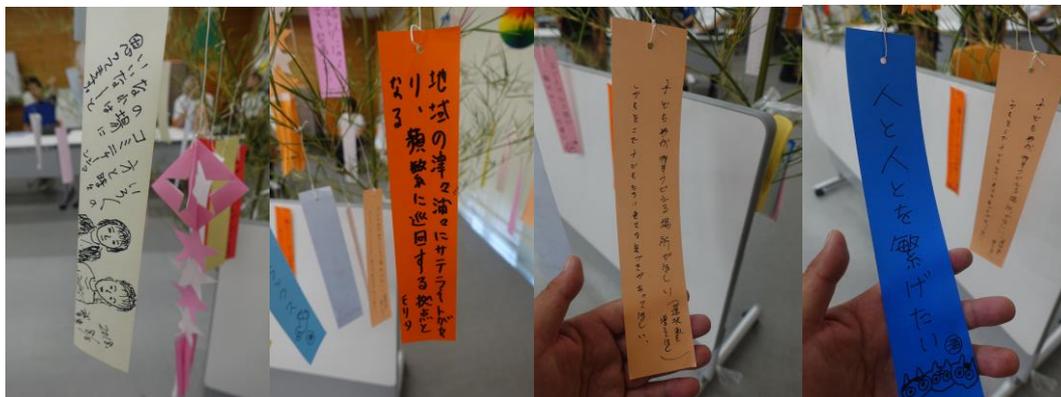
初回として、川上哲男教育長および内田純一委員長より今回のワークショップの意義等をお話いただき、さらに生涯学習課より「（仮称）四万十町文化的施設基本構想」の策定に向けての説明を行い、四万十町における新しい文化的施設づくりの大きなビジョンを参加者へ共有した。

そのうえで、レクチャー「四万十町ではじめる未来の図書館 - 未来を育む『文化的施設』のはじめ方」により、図書館等の文化的施設の意義と、まち全体で支え合う文化的施設のあり方を説明した。

第2部：14:15-16:30 まち歩きワークショップ【座学編】

文化的施設への私たちの願いや希望を短冊にしたためる

- 1) お互いの短冊の内容や短冊に込めた思いをグループで共有する
- 2) 短冊を笹に飾り付ける
- 3) まちあるきで行ってみたい場所・気になる場所を共有する



新しい文化的施設への願いや希望を短冊に書くことで、それぞれが抱えている思いを可視化・共有し、文化的施設のあり方や可能性を多角的に意識するきっかけをつくった。どの参加者も複数枚以上の短冊を書き、文字だけではなくイラストまで描く参加者も大勢いた。参加者が新しい文化的施設づくりに対して強い関心と希望を抱き、ワークショップに参加していることがよく伝わってくる光景だった。

さらに、短冊を飾り付けた笹を後日、役場や図書館で展示いただくことによって、ワークショップに参加していない町民にも共有し、新たな発見や気づきをうながし、文化的施設づくりへの関心を高める工夫を行った。

7. 第1回の成果：短冊に込められた願い・希望

「コミュニティの拠点として、人や地域とつながりたい」

- ・色々な方とのコミュニケーションの場になってほしい
- ・世代を超えたコミュニティーの場をつくりたい
- ・人と人とを繋げたい
- ・同世代、同じ趣味を持つ人が集まり、気兼ねなく楽しみたい
- ・地域の津々浦々にサテライトがあり、頻繁に巡回する拠点となる
- ・年配の方と用事が気軽に交流できる行事（敬老会・健康体操）をやりたい
- ・県外から遊びにきた友達や親戚を連れてきたくなる場所

「子どもたちの居場所、新たな気づき・学びの機会を増やしたい」

- ・子どもが集える場所、行ける場所の選択肢を増やしたい
- ・子どもは外で遊び、親はゆっくり本選び
- ・子どもたちと文化的・芸術的なワークショップを楽しみたい
- ・子どもと学びの時間を共に過ごしたい
- ・子どもたちが本を読んだりゲームをしながら、待ち合わせのできる場所にしたい

「多様な文化的体験をしたい」

- ・家族で工作がしたい
- ・美術・工作教室など、いろんな種類のワークショップがしたい
- ・好きな材料を使っていつでも手芸をしたい
- ・用意されているおりがみで好きなおりがみを作る
- ・映像による学習をしたい（ものづくりや技術など）
- ・音楽（特にクラシック）を聴きたい
- ・音楽を通じた交流
- ・ミニコンサートができる場所を設置
- ・落語が聞きたい

「くつろげる空間がほしい」

- ・裸足でリラックス
- ・裸足で図書館でくつろぎたい
- ・コーヒーの飲める図書館
- ・紅茶など飲みながら本を読みたい
- ・美味しいカフェオレが飲みたい

第1回「中高生ワークショップ」実施報告

1. 日時

2018年9月23日（日）13:30～15:30

2. 天候

晴れ 最高気温 29℃／最低気温 18℃

3. 場所

オリエンテーション・作業：四万十町役場 本庁東庁舎 1階 多目的ホール

4. 参加人数

合計参加者：7名（高校生6名、中学生1名）

5. テーマ

中高生にとって居心地のよい居場所を考えよう

6. プログラム実施内容

- 1) 開会の挨拶
- 2) オリエンテーション「中高生ワークショップの説明」
- 3) 中高生がよく行く・いる場所を考えよう
- 4) 中高生が行きたくなる場所を考えよう



中高生ワークショップでは、普段生活しているまちや自分たちの日常の様子といった身近なテーマ設定から、少しずつまちや文化的施設のあり方につながるヒントを探していった。文化的施設が中高生に使われ続けるために、いま彼ら・彼女らがいる居場所をキーワードに、まちと中高生の関わり方について整理し、議論を深めていった。

7. 第1回の成果：中高生にとって居心地のよい居場所を考えよう

「現在：中高生がよく行く・いる場所を考えよう」

- ・ サンシャイン しまんとハマヤ店
無料の休憩スペースでゲームをしたり、友達と話したりしている
食べ物を食べたり、飲み物を飲んだりできる
時間をつぶせる場所はこちらしかない
- ・ 四万十町立図書館本館、大正分館
静かな場所で本が読める、勉強ができる
時間を過ごせる
- ・ ローソン、よどや、大正フード
ちょっとした食べ物や飲み物を買う
- ・ LINE、Twitter のなか
友達といろいろな話ができる
- ・ 高知市内のイオン、マルナカ、TSUTAYA、帯屋街
買い物をする
友達と時間を過ごす

「未来：中高生が行きたくなる場所を考えよう」

- ・ 学校帰りにふらっと行って遊べる場所
- ・ 生徒が集える場所、飲食ができる場所
- ・ 友達と自由に話しながら勉強できる場所
- ・ 東京に負けないくらいの本屋、大きな本屋
- ・ パン屋、スイーツ屋がほしい
- ・ Wi-Fi がある場所
- ・ 映画館、カラオケ、ファミリーレストラン、雑貨屋、TSUTAYA
- ・ 高知市まで行かなくてもいいような科学館
- ・ 体が動かせる、スポーツが楽しめる場所

ワークショップからは、中高生がいま、まちのなかのどこにいるのかが可視化された。飲食や友達との会話など、中高生がやりたいことができ、かつ居心地のよい場所はまちのなかに少なくなっている現状が浮かび上がる。インターネットを通じたSNSのなかが居心地のよい居場所となっているのも特徴的だった。

第2回「まちあるきワークショップ【実践編】」実施報告

1. 日時

2018年9月24日（月）13:30～16:30

2. 天候

曇り 最高気温 26℃／最低気温 19℃

3. 場所

オリエンテーション・作業：四万十町役場 本庁東庁舎 1階 多目的ホール

まちあるき：四万十町窪川地区周辺

4. 参加人数

合計参加者：42名（検討委員・役場職員を含む）

5. テーマ

まちから考える・まちとつながる文化的施設を考える

6. プログラム実施内容

- 1) 開会の挨拶
- 2) 中尾町長挨拶
- 3) オリエンテーション「まちあるきの説明・テーマ決定」
- 4) まちあるき
- 5) まちあるきマップをつくる
- 6) グループ発表

第1部：13:30-14:10 オリエンテーション「まちあるきの説明・テーマ決定」



中尾町長にお越しいただき、四万十町として「新しい文化的施設のあり方」をどのように位置付けているのか、また庁内での検討状況（建設予定地候補など）もあわせて共有いただいた。川上哲男教育長および内田純一委員長より挨拶をいただいたあと、ワークショップのオリエンテーションを行い、まちあるきの流れを説明した。

各グループでまちをあるく時のテーマを以下の6つのなかから、それぞれ2つずつ選んでもらった。

■まち歩きワークショップ：まち歩きのコースとテーマを考えよう

まち歩きのエリアと、2つのテーマを考えよう

<p>本</p> <p>まちと本はどのようにつながっていける？</p>	<p>アート</p> <p>四万十町らしいアートとは？</p>	<p>音楽</p> <p>人々の暮らしと音楽のつながりは？</p>
<p>歴史</p> <p>まちの歴史を伝えるものは？</p>	<p>自然</p> <p>四万十町にとって自然との関わりは？</p>	<p>ひと</p> <p>四万十町のすごい人って誰だろう？</p>

テーマを設定することで、漫然とまちを歩くのではなく、それぞれのテーマに沿った視点を得ることができた。なお、テーマ以外の内容を認めないということではなく、あくまでも補助として位置付けている。まちあるきのコース設定も各班で決めたテーマに基づいて検討し、決定していった。

第2部：14:15-16:30 まち歩きワークショップ【実践編】

各グループで決めたテーマを参考に、窪川地区周辺のまちあるきを実施した。まちあるきの途中で古民家カフェ「半平」での休憩を取ることを条件に、そのほかは基本的に自由に町内を散策した。まちあるきから戻ってきたあとの作業のため、適宜メモや写真記録を残しながら行った。



まちあるきでは、各グループともに積極的なコミュニケーションが図れ、和気あいあいとした和やかな雰囲気が進められた。普段、車でしか通らないため気がつかなかったことについても、今回のようにまちを歩くことによって見える景色の違いに気がつくことができていた。まちのことに詳しい年配の方々と移住してきた若い方々の間でのコミュニケーションもよく見受けられた。



古民家カフェ「半平」では、遍路道の歴史や旧都築家について語り出す参加者も見られた。「半平」を日頃から使っている方もいれば、初めてくる方もいたようだった。「半平」への評価はたいへん高く、参加者からはこの場所もうまく生かしていきながら、文化的施設のあり方と連携できるとよい、など前向きな意見が交わされていた。



まちあるきから戻り、気づいたことを地図に記録していく段階においても、活発な意見交換が見られた。気が付いたことや意見を書き出す際にも、比較的スムーズに進み、グループ内での議論に十分な時間をとることができていた。

グループ発表では、それぞれのチームで決めたまちあるきのテーマに基づいて、グループ内での検討の内容が共有された。普段は車での移動が多い生活のなかで、徒歩によって見えてきたまちの風景に、新たな気づきや発見を得た参加者が多かったようだ。そのなかで、四万十町の歴史や自然、まちのなかに残された風景が文化的施設とどのようにつながりあっていけるのか、意見を交換しあった。

7. 第2回の成果：グループ発表

1班「テーマ：歴史・アート」



■気づきのポイント

- ・歴史的な建物や昭和なまちなみが残る
- ・古い建物の景観を生かす
- ・市街地のシャッターが降りている家屋が多い
- ・古くて倒壊の恐れがある建物解体が急がれる

- ・アートな人と芸術作品があるまち
- ・お寺の音が聞こえる
- ・夜にはライブが行われる場所があるが、昼はないのか？

- ・まちあるきのなかで、町民にほとんど会えなかった
- ・市街地に町民の姿がまったくなかった
- ・人、とくに子どもが歩いていない、居場所がないのでは
- ・大人の居場所はある、子どもの居場所はないのか？

- ・半平の馬屋を残したい
- ・半平の馬屋、土蔵・白壁を残して再開発できないか
- ・半平の風情ある庭園と歴史を感じる室内（手彫りの欄間）
- ・茂串山を活用できないか

2班「テーマ：ひと・自然」



■気づきのポイント

- ・ 吉見川のテラス、吉見川が意外にきれいだった
- ・ 吉見川沿いの歩道を住民交流の場にできないか
- ・ 川沿いのスペースは入り口も整備してベンチや日よけを用意するとよいのでは
- ・ 四万十方式と呼ばれる近自然工法によって吉見川が再生された
- ・ 橋の数が多く、それぞれに味がある
- ・ 古い町並みと自然（森、山、川）が一体化していて絵になる
- ・ 日常、車での移動では気づけなかったが歩いてみる日常はより自然を近くに感じる

- ・ お宮の森の茂みは夏になると人びとの憩いの場
- ・ 商店主がまちをつくってきた・
- ・ 古民家カフェのスタッフの方々はとても親切な積極をしてくれる
- ・ 旅好きの人が窪川に来る
- ・ 昔は人生を考えながら巡っているお遍路さんが来ていた

- ・ 古くて渋いとても魅力的な喫茶店が目についたが、やっているのかどうか分からないのが少し残念
- ・ 茂串山沿いに自然・歴史・文化をモチーフにした遊歩道があるとよいのでは
- ・ お遍路さんの文化と図書館をどのようにミックスさせていけるか
- ・ 山沿いの緑に線路や公園が整っていて環境がよいので、保育園の遠足などに使えるよう綺麗に整備するとよい

3 班「テーマ：ひと・歴史」



■気づきのポイント

- ・ 谷干城の銅像が以前あった場所
- ・ 軍人墓地（忠霊燈）がある
- ・ 市川文光堂という本屋さんがあった
- ・ 旧商店街の通りはシャッターが降りている店舗が多く寂しいが歴史を感じる
- ・ まちガイドボランティアとつながる場所があるといい
- ・ 花取踊りなどの地域の伝統文化をしっかりと伝えていきたい

- ・ 遍路道の道しるべ、石碑があった
- ・ 岩本寺以外にも琴平神社など、まちなかにたくさんの神社ある
- ・ アーチ橋は観光スポットとしてもよい
- ・ 市街地には以前は3つほど映画館があった
- ・ 岩本寺～旧役場～半平までが文化資産を残しながらもフラットにつながるといい
- ・ 昔の四万十町を知る機会がまちなかにもあるといい（看板など）
- ・ 遍路道やそれとつながるエリアのジオラマをつくると面白いのでは

- ・ 半平のような居心地のよい場所が増えるとよい
- ・ 半平はまったくするスペースだけではなく、イベントスポットとしても使われている

第3回「ストーリーづくりワークショップ」実施報告

1. 日時

2018年10月14日（日）13:30～16:30

2. 天候

曇り 最高気温 22℃／最低気温 9℃

3. 場所

オリエンテーション・作業：四万十町役場 本庁東庁舎 1階 多目的ホール

4. 参加人数

合計参加者：30名（検討委員・役場職員を含む）

5. テーマ

四万十町の新しい文化的施設から生まれていく私たちのストーリー

6. プログラム実施内容

- 1) 開会の挨拶
- 2) オリエンテーション「ワークショップについて」
- 3) ストーリーづくり
「四万十町の新しい文化的施設から生まれていく私たちのストーリー」
- 4) ストーリー選び
- 5) グループ発表

7. 第3回の成果：新しい文化的施設から生まれていくわたしたちのストーリー

「交流とくつろぎの場、若者の居場所」

- ・ 子育て中のお母さんと子どもは、現状の図書館では周囲を気にしてなかなか行きづらい雰囲気があった。またお母さん同士で集まって子育てについて話し合うような場所も少なかった。文化的施設のなかには、子どもを自由に遊ばせられるようなスペースがあって、子ども同士、母親同士、父親同士が自由に時間を過ごせるようになった。
- ・ 放課後や休日にいける場所がなかった高校生が、映画館や劇場、カフェを備えた文化的施設ができたことによって、待ち合わせやデート場所としても利用できるようになった。教えあいや学びあいの空間だけではなく、フットサルスペースで少人数でもスポーツも楽しむことができる。
- ・ じゆうく。に來ている高校生やスタッフが、ふと浮かんできた疑問を解決するために、文化的施設に出かけて一緒に調べられるようになった。ただ本を読むだけではなく、生徒とスタッフが話したり交流したりして、学びあう場となった。
- ・ 四万十町に移住して來た20代の男性は、休日やアフターファイブになると高知市や須崎に余暇を過ごしに行ってしまう。文化的施設が娯楽と寛ぎの機能を併せ持っていることで、プライベートの時間も過ごせる空間であってほしい。若者同士で仕事でも使えるカフェもあるといい。

「四万十町全体へ広がる機能と工夫」

- ・ 十和地区在住の3人の子どもを持つ40代の母親は、地域に図書館がなく、子ども連れで和める場所（特に屋内）が無く困っていた。窪川地区にできた文化的施設は、地域間をつなぐ無料の送迎バスができたことによって、乳児連れでも行きやすくなった。
- ・ 四万十町に住んでいる人びとのなかには、同じまちに住んでいるのに世代間、コミュニティ間で知らないことがたくさんある。文化的施設には、まちのジオラマが設置してあり、ピンとタグが刺せるようになっていて、深く知りたいと思うようなきっかけや豆知識などが紹介されている。このジオラマを通して、まちの見えていなかった情報を見つけたり、誰かと会話するきっかけとなったり、古いまちの写真などもライブカメラで見られるなど、まちとのつながりを感じられる起点となった。
- ・ 町外の人が來た時に、地域やまちのことを紹介、案内できたりする場所を施設のなかに設置する。四万十町の観光案内もできる場所となる。

「ものづくり・場づくりを通じた自己表現の場」

- ・ ワークショップで作品をつくりたいと思っている 40 代の女性は、四万十町でなかなかそのような機会が得られないため、町外まで出かけることもあった。文化的施設では、日替わり（月替わり）で工作教室を体験することができるようになった。
- ・ 小さな商いに挑戦してみたい人が、短期間でも店舗を出せるような場所がある。
- ・ ものづくりをしたいお父さんと子どもが、文化的施設で学んだことを実際に作れる空間としてもものづくりガレージがある。作品を展示することもできる。

「最先端の情報環境の整備」

- ・ 四万十町の高校生は、まちに書店などがいないため、都市部に比べて知の競争で引けをとっている。文化的施設が IT を駆使した機能を備えることで、四万十町にいながらあらゆる知に触れられる場となり。都会に行かなくても最先端の文化、芸術、音楽に触れ合える四万十町となった。
- ・ 子どもを持つ 40 代の女性は、子どもの好奇心を刺激するような楽しい場所がまちにないため、子どもが家でテレビやゲームばかりになっている現状に悩んでいる。文化的施設では、子どもの知的好奇心を呼び起こすような最新の情報技術が利用されていて、VR による教育コンテンツの提供や、読みたい本がどこにあるのか探せるアプリによって子どもにも本がを見つけやすくなるなど、さまざまな仕掛けが散りばめられている。

以上